

0633

六  
本



領密受第 三月八日

明治三十九年三月五日

第十二師團長 井上



陸軍大臣寺内正毅殿

陸軍修廣歸還者取扱規則第十條：依リ九記ノ者ニ對スル  
時未ニ周スル意見及審閱書類及進達願也

騎兵第三聯隊時

三月十七日

陸軍騎兵少尉 梅澤英彦

領密受第一  
三月九日  
三月九日  
五二

意見

騎兵第十二聯隊附

陸軍騎兵少尉 梅澤英彦

右、明治三十七年十一月一日騎兵少尉、任し三十八年出征したる者にて、  
同隊内ニ於て他將校トノ關係及下士以下ニ對シテ威信ニ就ラズ、  
顧慮ナキニ依リ將來特ニ本人ニ對シテ處置ヲ容セサルモノト認ム  
右及報告候也

明治三十九年三月五日

第十二師團長 井上



陸軍大臣寺内正毅殿

陸軍

被審問者

騎兵第十二聯隊隊附

陸軍騎兵少尉 梅澤 英 彦

右審問委員長、報告ヲ査閲スルニ厚法會議又ハ行政處分ヲ考テ

廿九ノト認ム

明治三十九年三月五日

第十二師團長 井上 光

陸軍

彙

明治三十九年三月五日

俘虜審問委員長 相浦多三郎

第1師團長 井上光殿

具申書

第1師團騎兵第1聯隊第3中隊

陸軍騎兵少尉 梅澤英彦

右今般俘虜トナリ帰票シタルモノニ付審問會議ニ於  
テ審問ヲ遂ケ埃處本人ノ頭部ニ刀創ヲ受ケ人事  
不省トナリ敵ニ捕ヘラレタルモノニテ職責上名譽言ヲ毀損  
セ尤モノト認メ軍法會議若シテハ行政處分ニ附

大發第33之號



元二及分ト思科  
 本本人花ニ龍溪文藻  
 審問調書相添狀段及具  
 申矣也

審問會議々事録

相浦委員長

只今ヨリ俘虜帰還者陸軍騎兵少尉梅澤英  
彦ニ関スル審問會議ヲ開ク(午後一時)別紙審  
問調書、如ク審問ス  
各委員ニ被審問者ノ行爲ニ就キ意見ヲ述  
ブ

藏田委員

梅澤少尉ニ中隊誌ヲ取テ断行ニ敵ヲ距ル數十  
米突ノ地点ニ至リ中隊ノ先頭ニ立テ敵ニ猛進セ  
シラ以テ中隊ガ退却ヲ決行スル際ニ最早敵

中：混入の再後敵弾、為ソレ已ト乗馬ニ三彈  
ヲ受ケ進退極アリ、際敵ノ包圍ヲ受ケ頭上ニ  
負傷シ前後不覺トナリ、以テ軍法會議若  
ク行政處分附スルニ及ハサルモノト思料ス

権藤委員

襲撃ヲ決行シテ中途更ニ退却之決心ヲ翻セシ  
混雑ノ場合中隊長ノ命令聞ハスシテ敵中ニ突  
入シ、過失ニ相違ナキモ頭部ニ負傷スルヲ  
格闘ノ後敵ニ捕ヘテ、職責上名譽  
ヲ毀損セサルモノト認シ、軍法會議又ハ行政處  
分ニ附スルニ及ハスト思考ス

野寄委員

梅澤少尉

敵ト格闘、結果刀剣ヲ受ケ人事不省トナリ為ソシ  
 敵ニ捕ヘシムル是レ自己ノ任務ヲ遂行シタルモノニシテ  
 即チ軍法會議又ハ行政處分ニ該当セザルヲ認ム  
 徳田委員

被害者當時ノ情況ヲ考察スルニ中隊龍衣撃  
 ニ移ルヤ中隊長ノ訓令ニ基キ一意敵ニ衝突スル  
 決心ナリシヲ以テ自然馬匹ヲ疾駆セシメタル結果遂  
 ニ奔馬ヲ制駆スルヲ得ス空シク單独敵中ニ突入シ  
 遂ニ包圍ヲ受ケ打撃ヲ蒙リ人事不省中敵ノ



手中に陥りタルモノニシテ名譽ヲ毀損セザルモノト認め  
依テ行政處分又ハ軍法會議ニ附スル及ザルモノト  
思考ス

相浦委員長

被審問者ハ職責上名譽ヲ毀損セザル者ト認  
メ軍法會議若ハ行政處分ニ附スル及ハスト思  
考ス異議ナキヤ

各委員

全部異議ナシ

相浦委員長

然ルニ被審問者ノ所為ニ就テハ處置ヲ要セザ

ルモノト決ス

明治三十九年三月五日

審問委員長

相浦多三郎

審問委員

徳田孟雄

同

野崎準一

同

権藤五七郎

同

蔵田判爾

書記

蔵田判爾



審問調書

原籍福岡縣福岡市荒戸町三番丁二百五番地

身分士族

所屬隊 第十七師團騎兵第三聯隊第三中隊

官姓名陸軍騎兵少尉梅澤英彦

生年月日明治十六年七月二日生

審問委員長の審問主任者徳田大尉ラシテ審問ナリ

シム

問汝、原籍身分所屬隊官姓名生年月日ヲ申述ベシ

答(前記載ノ通り申述リ)依テ茲ニ之ヲ畧ス

問汝、停虜ト為リシニ相違ナキカ

答 相違アリマセン

問 汝が俘虜ト為リシ当時、情況ヲ知ルモノアルカ

答 有ルヤ無キヤ解リマセン

問 汝が俘虜トナリシ地名年月日時刻ヲ申立テヨ

答 清国満洲蛇次峯西並高地ニシテ明治三十八年六月

五日ノ午前十時頃ト思ヒマス

問 汝が其当時何隊ニ属シテリシカ

答 騎兵第十三聯隊第三中队ニ属シテ居リマシタ

問 其当時第三中队ハ何時頃何処ヲ出發シ如何ナル

任務ヲ以テ如何ナル方向ニ前進セシカ

答 六月五日早朝第三中队ハ耿在子ヲ出發シ平城

大尉指揮、許、同日午前六時頃蛇次谷東南  
約千米突、地点ニ到着シ其地點ニ停止シテ前方ヲ  
搜索シテアリマシタ

其時、任務トシテ、只、支隊（竹下中佐、率テ）  
、後尾ニ隨ニ行進セヨト、知リシノミテ其他ハ

聞キアセシ

問 此時前方高地ニ敵ノ監視兵アルヲ聞キ松次ノ  
命令ヲ受ケテ此敵ニ向ヒ前進シマシタ

命令

梅澤少尉ハ部下下士名兵五名ヲ率ヒ前方ノ  
敵情ヲ搜索セヨ

私カ出奔シマシタ後中隊依然前所停止シテラ  
リマシタ

問 汝ハ其命令ヲ受ケテ如何ニ動作セシカ

答 出奔シテテ前面ノ高地脚ニ達セシ時下士一名  
ニ兵一名ヲ附シテ側方ニ展望哨ノ目的ヲ以テ出シ  
殊部私カ率ヒテ約二十米突ノ間隔ヲ取り高地  
地ヲ奔シ始ノマシタ

所カ頂上ニ達セシヤ否ヤ敵ノ潜伏シタル步兵為  
一齊射撃ヲ度テ直々ニ退却シテ後方二十米突  
位ノ所ニテリシ独立家屋ニ據リマシタ此時ニ味方ノ歩  
兵乍候接近シ来リシテ以テ其地点ヲ捨テ本街

道(中隊行進路より道)ニ出デント在テマシタ所中

間ニ濕地ガアリマシテ多々困難ヲ經シ後漸ク中隊

ニ合シ得マシタ此時松ノ中隊長殿ト共ニ先頭ニライ

マシタ此時ニ中隊速歩ヲ以テ本街道ヲ前進シ敵ノ

騎兵若干騎ノ休止点ヲ去ル東方約五百米突ノ

所ニ迄前進シ其處ニ停止シテ敵ノ動静ヲ伺フヲ

ヲリマシタ

此敵ノ休止点ニ蛇次各鞍部ヲ去ル南方約三百米

突ノ細道上一伍縦隊ノ俣下馬停止シテマシタ

問 此後中隊如何ニ行動セシカ

答 此後中隊漸次前進シマシタ所休止セシ敵ノ忽チ

散乱シテ南北ニ逃走シマシタ中隊ハ敵ノ休止点ヲ  
去ル第一着ノ高地ノ突角ニアツテ崗前方ヲ搜  
索セシ所西北方道路上ニ三甲騎ノ現在セルヲ  
見ルヤ否ヤ直ニ襲撃ニ移リ馳歩隊ヲ此  
敵ニ向ヒ突進セリ

問 此時敵如何ニセシカ

答 敵ハ退却シマシタ

問 此敵ノ前ノ休止セル敵ト同シキモノナリシカ

答 休止セル敵ト同シキモノナルヤ否ヤハ分リマセン

問 中隊カ襲撃ヲ突進ヲ始メシ敵ト何程ノ距離ニアリシカ

答 五十米突進ト思ヒマスガ今明カニ覺エテラリマセン



問 敵、五十米突進接近する、何モオヤリシカ

答 敵、何モシマセンデシタ

問 中隊、其後如何セシカ

答 敵突入セサル、前側面、高地上より非常ニ敵ノ

乱射ヲ受テ遂ニ突入セズシテ退却セシモノト思ヒマスガ

確ニ解リマセン

問 中隊が、以實際退却セシヲ知ラサリシト、如何ナル故カ

答 中隊が、龍巻撃ヲ突進ヲ始メマシテ間モナク、一中隊

ヲ離レ馬ノ為ノ前方ニヒツカケラレマシタカ、後方

ニ居ラル、中隊長殿ノ号令モ聞ユマセン、又中隊が

何時退却シタ、モ知リマセンデシタ

問 汝は其間後方中隊ヲ顧ミサリシカ

答 其前中隊長殿が言ハシマシタノニテ敵ノ乗馬射撃

ヲナスカモ知レシガ其レニカマワズ切込メ巨ト聞キマシタカ

ラ一心不乱ニ敵中ニ突進シマシタ

問 其地点ハ何知ナリシカ

答 蛇次谷鞍部ノ頂上デアリマシタ

問 其時汝ハ何ヲナセシカ

答 其時後方ヲ見マシタカ一人ノ味方ヲモ見エマセン

テシタ又同時ニ其前方ニ敵ノ騎兵ガウリマシタ今

退却シヨトノ氣ヲ勵マシテウリマシタ時左側面ノ方向

ヨリ非常ニ射撃ヲ受ケシ爲メニ乗馬ノ腰部

二 一彈ヲ受リマシタ

問 其乘馬ノ負傷セシメ明カニ分リシカ

答 出血セシテ以テ負傷セシトヲ知リマシタ

問 其後汝如何ニシセシカ

答 乘馬ハ拍車ニ動カサル故軍刀ヲ抜キ尻ヲ切

ル迄ニ打チマシタ所五六歩行進シテ又止リマシタ

其時、当リ第ニ祭ノ彈カ馬ノ胸ニ当リ馬

ハ其處立スルコトヲ動キマセシカヲ如何セト氣ヲア

セリツ、正に際最早敵ノ騎兵ニ四方ヲ取圍ミマシタ

問 汝其時如何ニ決心セシカ

答 止ムヲ得ス格闘セト決心シマシテ非常ニ格闘

1990 1990

シマシタ

問 格闘、情況如何

答 敵ハ格闘中肉射撃ヲ續ケテアリマシタ私ハ舊狀  
致シマシタケシハ遂ニ側面ヲヒキ方向ヨリ頭上  
ニ貫傷ヲ致シマシタ

問 其時如何感ゼシカ

答 其時ハ何モヲカズ只大ナル石が頭上ニ落ケシカ、極  
ニ感ジマシタノヘテ其後ハ事ハ更ニ分リマセン

問 何時頃氣が付キシカ

答 私人氣が付キマシタハ、昼頃デアリマシタ併シ其  
日カ翌日カヨク分リマセン

問 氣ノ付キニ所ニ何知テアリシカ

答 何知カ解リマセニ敵ノ仮編帶所ラシキ所テア

リマシタ

問 敵ニ捕ヒニ所カラ其連シ行カシタ所迄ニ何程位

ノ巨密カアツタト思フカ

答 更ニ分リマセン

問 敵アリ尋問ヲ受ケタルトアリヤ其場所年月

日尋問者及事項并ニ其答解ヲ申述ゴ

答 年月日ハ不明テアリマカ場所ハヘルウトカ云

フ所テアリマシテクロバトキンノ参謀長ラシキ将校

カ日本人ラシキモノヲ通譯トシテ左ノ事項ヲ問

ヒマシタ又其ニ對シテ各在如ク答ハシタ

露路圖 所屬聯隊 答 騎兵第1聯隊

露路問 官姓々々

答 陸軍騎兵少尉梅澤英彦

露路問 任務力

答 敵ヲ見ニ来タ

露路問 汝ノ部隊、兵數

答 部下約七八十名

其他食事中談話ニカニツケテ 種々前事編

成ノ事等問ヒシモ明答ニマセシタ

問 本日申立テタ事ハ事實相違ナキヤ

答相違アリマシ

問相違ナリハ誓文セリ

本日審問會議ニ對シ答解セシ事  
相違魚ノニ付於テ誓文也

明治三十九年三月五日

被審問者陸軍騎兵少尉梅澤英彦

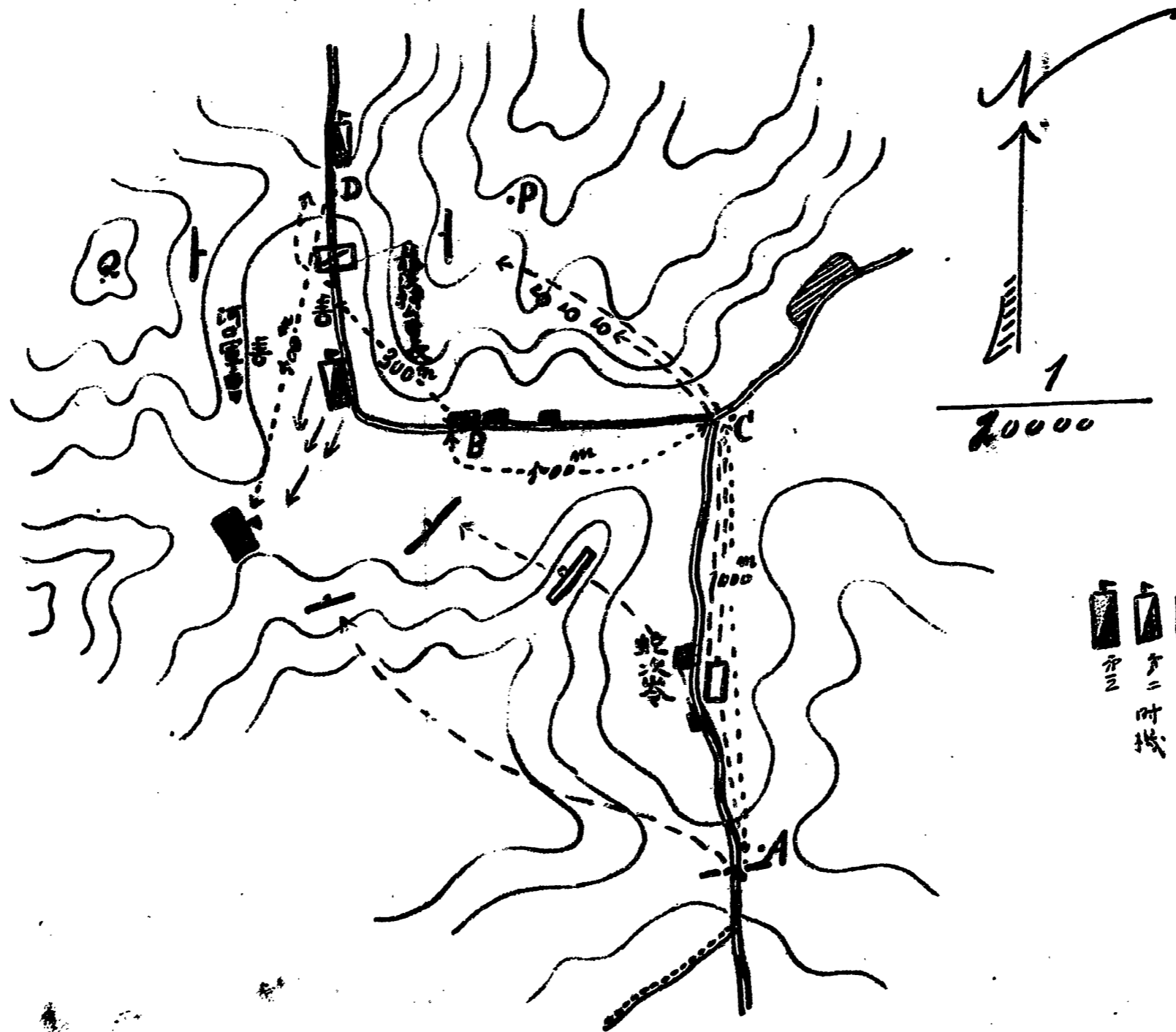
陸軍騎兵少尉梅澤英彦証人

陸軍騎兵特務曹長龍溪文藻審問調書



2990

北院寺北山三才新地梅沢村住持の地図  
 示作三十八年六月三日平十時



梅沢村

審問調書

伊予地方に在る軍馬六少尉梅澤良久證人

原籍 佐賀縣東松浦郡唐津新町九百五十一番地

身分 平民

竹島島 第十一師團騎兵隊第三中隊

官姓名 陸軍騎兵少尉梅澤良久 龍溪文彦

生年月日 明治十二年五月十七日生

審問委員長 審問主任者 鹿田大尉ノテ審問ヲサシム

問 汝の原籍、身元、所屬隊、官姓名、生年月日ヲ申シテ

答 (前記ノ通リ) 依テ是レヲ答ス

問 其當日其申す所如何ニ任務ヲシラ何時何家ニ出齊セシヤ

一  
二

答 六月三日午時三時中房。モウキハイヲモホクニ均座し方角

敵ヲ捜索ス。任務ヲ以テ先ヅ冷水泉子ニ達ス。此時

午時七時頃テアノコトヲ

問 出奔ニ當リ特別任務ヲ受ケし時枚アリキ

答 アリマス

問 誰ナリヤ

答 陸軍騎兵中尉田中元毅 ダイノマニヲ

問 如何ニ任務ヲ受ケシヤ

答 加瀬支隊ト連絡ヲ取ル爲メ

問 莫シクモ

答 莫トシテアリマセン

間中屋冷水泉水子より蛇次峯高地、敵搜索手段不

其概果、情況ヲ述ベシ

答、中隊、午前七時頃冷水泉水子に到着し停止、同一時頃

隊長、梅澤少尉、兵六名ヲ付テ蛇次峯鞍部、

敵狀ヲ探査セシメテ、梅澤少尉、鞍部、

スノ際敵、乃チ非常ノ射撃ヲ受テ退却シ中隊、

合セシメテ、其後我々兵六名前進シ此鞍部ヲ占領シ

タカシ中隊、其後方より前進シ、鞍部ヲ越テ暫ク蛇

次峯ニ停止シテラリシヲ

問、中隊長が梅沢少尉ノ報告ヲ聞イタカ

答、最初傳騎ヲ以テ次々白合ヲ報告シ、歸リテモシ

臺

電

問中及其後ノ運動如何

答河口軍曹夫兵トテ日村深谷到着トシテ

此村ノ敵ハ居ノマセ方ヲ此時中及及敵ハ私ト河軍

曹ヲ夫兵トテ前方ニタシマシテ私ト通路ヲ行進シ河

軍曹ハ○高地中向テ前進セシメシテ此時私カ日村

ニ流ラホツルヤ否ヤト鞍部所ノ敵ノ討兵カト鞍部所

坂カト儘イイテマシテ直ニ此事トシ中及長銃

報出シマシテ

問中及如何ニシヤ

答直ニ敵軍撃テ移リマシテ

問其後如何ナルコトヲモシヤ

答、依然故、向、前進中、其馬が倒レシテ、(敵得シ) 其馬ノ

為、足ヲ押ヘシ起キ、揚ル事カ出来モシテ、其後、同セテ

又馬ノ一頭、私ノ馬ノ所、倒レシテ、其カタメ、起キ、トカ志

来ナク、テ、非、常、モカ、モ、居、ラ、ス、所、又、追、ニ、名、ノ、侍、校、カ、速、歩

テ、私、上、ヲ、越、テ、敵、ノ、方、突、進、シ、レ、シ、テ

問、汝、ノ、馬、上、倒、レ、シ、タ、ル、誰、ノ、馬、ヲ、ア、ツ、マ、カ

答、侍、校、ニ、モ、騎、鐵、ニ、長、柄、瀨、江、治、ノ、馬、ヲ、ア、ツ、マ、シ、テ

問、汝、カ、倒、レ、シ、タ、ル、侍、校、カ、誰、ニ、シ、テ、何、程、ノ、時、間、ナ、リ、キ

答、極、テ、短、時、間、ト、シ、テ、如、何、程、ニ、モ、今、モ、セ、シ

問、其、侍、校、誰、ア、ラ、シ、カ

答、ワカ、ラ、セ、シ

問 疾駆を待枝に飛越せしむる起き上りしは、何時間如何

答 待枝が越えし時、何モ、起き上りしは、何時間、何時間、何時間

問 待枝、雨敵方ニリキヤ

答 見えませし

問 汝、倒しし所、鞍印、頂上、見通し、如何

答 頂上、見えませしが、私が馬の下、立ち、カ、リ、シ、カ、ラ、其時、見えませし

テシタ

問 汝が倒しし時、敵、見え、エ、ナ、カ、ラ、カ

答 其時、馬、下、ニ、ナ、ラ、テ、居、テ、敵、ノ、方、ニ、向、ヒ、居、リ、マ、シ、テ、カ、ラ、見、エ

マシテ、テ、シ、タ

問 中、隊、が、襲、撃、せ、し、時、汝、敵、カ、ラ、何、程、距、離、ニ、リ、シ、ヤ

答 約三十米突ト思ヒマス

問 其時倒レタカ

答 ソウデアリマス

問 汝如何ニテ馬ヲ起セシヤ

答 和馬上ニ上リテ馬が起キ上リテタカラ其後ニ續キ私馬自分

が起キ上リテ故ニ私モ起キ上リテ出来マシタ

問 汝が起キ上リテ味方兵が見エシカ

答 一騎も見エセシデアリタ

問 其後汝如何ニセシヤ

答 徒歩ノ儘駆歩シニ日村落ニ逃行マシタ

問 最初中隊が襲撃ニ移ル時日村落ニ中隊長何



レ、位置ニナリシヤ

答 中身、先頭ニ居シコトク

問 汝、何ニナリシヤ

答 中身、先頭ニ居シコトク

問 此時、抽込少針、何ニ居クシヤ

答 當ルニ居セヌ

問 蘇、小撃セシ通路、中、何未突位ナリヤ

答 約ニ未突

問 口鞍部、何ニ程、高ナルヤ

答 五未突位ニアリ

問 復、傾斜如何

答 極多 緩傾斜 ありまじや

問 脚ト鞍ノ最高部ト向未突ノ距離アルヤ

答 約三十米突

問 汝が倒しに付ト中隊が襲撃を開始せしむれば村落の西端ト、

距離如何

答 約三百米突

問 中隊が襲撃を開始する際如何なる歩度ヲ取りしヤ

答 襲撃歩

問 汝の馬ノ爲メ壓倒せしむる間中隊ノ退却せしむる

知りしヤ

答 退却せしむるに付アルヲ見せしむ

本日、審問會議、御審問、對之答辨セリト  
 相違、無之、此、誓文、也  
 明治三十九年二月二十二日

陸軍騎兵特務曹長 護溪文 謹

